

小児保健学研究室（高野貴子先生）

▶高野先生はどのような研究や活動に取り組んでいますか？

- ・これまでや現在の研究テーマ：遺伝学、染色体研究、先天異常児の診療と研究
- ・その学問の魅力：高校生の頃に生物で習った遺伝や発生に興味を持ち、小児科医となってすぐに染色体研究を中心に遺伝学的研究を始めました。医学においても遺伝学は人を理解する上で重要な分野になっています。現在も続けている患者の診療から遺伝学（臨床遺伝学）を学んでいて、興味は尽きることがありません。
- ・保育者養成との関わり、主な担当科目：子どもの健康、成長と発達、病気や事故の予防と対処などを「子どもの保健」や「子どもの栄養」の科目で教えています。子どもを健康に、かつ安全に育てる基礎知識やスキルを身につけるだけでなく、病気や障害のある子にも温かく自信を持って支援できる保育者を育てたいと考えています。大学院では専門の「人類遺伝学」を開講しています。

▶この研究室やゼミ（4年次）のことについて教えてください。

私のゼミでは子どもの健康、疾病、障害に関する全ての領域を取り扱います。自分の興味・関心のあるテーマを掘り下げていくことが最もやりがいがあるでしょう。学生が主体的に文献やインターネットからテーマに関する情報を集め、議論していく中で、より深い考察ができるように私からも本や文献を提示して指導します。さらに専門家の紹介、フルドワークの紹介をする場合もあります。4年次の卒業研究を終え、卒業論文を完成させると、ひと回り成長し達成感を感じている学生の姿を見ることができます。

▶もっと知りたい方へ

- ・著書：「図表で学ぶ子どもの保健 I」（先天異常；分担）、「わかりやすい臨床遺伝学」（訳書）、「小児科学」（遺伝および遺伝カウンセリング；分担）、「小児科診療ガイドライン」（ダウン症候群；分担）、「発達障害医学の進歩 33 集」（発達障害と遺伝の考え方；分担）
- ・論文：（筆頭）「Sex differences in congenital heart disease in Down syndrome: study data from medical records and questionnaires in a region of Japan. *BMJ Paediatrics Open* 2019、
「Tetrasomy 21 pter→q21.3 due to an extra +dic(21;21)mat in a severely psychomotor-retarded female patient without Down syndrome phenotype.」*European Journal of Medical Genetics* 2020、「Adult acampomelic campomelic dysplasia and disorders of sex development due to a reciprocal translocation involving chromosome 17q24.3 upstream of the *SOX9* gene」*European Journal of Medical Genetics* 2021、（共著）「大学内0～2 歳児保育施設における食物アレルギー除去のための全園児同じ献立の取り組み」*小児保健研究* 2022.
- ・社会活動：東京家政大学内ナースリールーム嘱託医、東京都立東部療育センター遺伝外来担当医、日本赤十字社中央血液センター医学倫理委員